

～子供の声を聴こう！これからの学校づくり～



魅力だより



No.1

R8.6月

高校教育課学校教育生徒指導班

これまで県内ほとんどの学校で、いじめや不登校、問題行動等の未然防止を目的として、「魅力ある学校づくり」に取り組んでいただいているところです。現在のそれぞれの学校での取組状況はいかがでしょうか。

改めて「魅力ある学校づくり」について確認していただき、子供の声を聴く「意識調査」をもとに教育活動を振り返っていただくことで、更なる取組の充実を図っていただければと考えています。



「魅力ある学校づくり」とは

1 「魅力ある学校づくり」は、国立教育政策研究所が提唱する取組

「魅力ある学校づくり」とは
発達支持的生徒指導や課題未然防止教育
をベースにした不登校対策の取組

- = 新たな不登校を生まないための取組
- = すべての子供たちが、明日も、明後日も
行きたいと思える学校にしていく取組

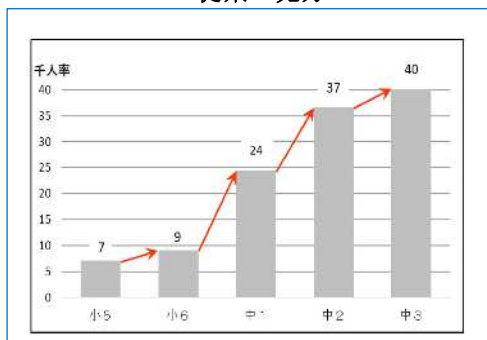
チームで適切な発達支持的生徒指導や課題未然防止教育の取組を行う

- 1 「発達支持的生徒指導」や「未然防止」を、根幹とする
- 2 全ての教員が、チームとして関わる
- 3 自分たちの取組を、定期点検する
- 4 子供たちの声を聴く
- 5 絆づくりを、より意識する
- 6 校区で取り組む

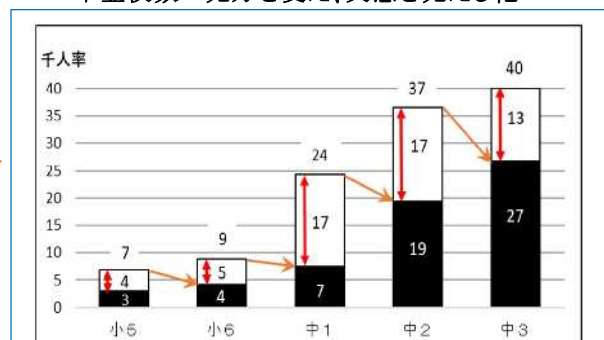
2 不登校「新規数」に視点を当てた、集団への発達支持的生徒指導や未然防止の取組

不登校対策を、二つの視点(「継続数」と「新規数」)で、整理して対策を考える

従来の見方



不登校数の見方を変え、実態に見える化



- 継続数…前年度も不登校であった児童生徒の数 → 個別支援
- 新規数…前年度は不登校ではなかった児童生徒の数 → 集団指導

3 「意識調査」により子供の声を聴く(質問は4つ・他のアンケートと併用しない)

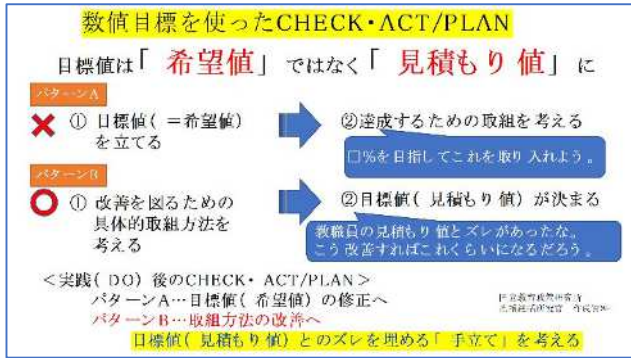
	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
ア 学校が楽しい	1			4
イ みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	1	2	3	4
エ 授業がよくわかる	1	2	3	4

「当てはまる」に焦点化

- ・学習と人間関係に絞った質問
- ・4件法
- ・無記名式
- ・学級・学年単位で集計

意識調査の結果の分析→「見積もり値」とのズレに着目

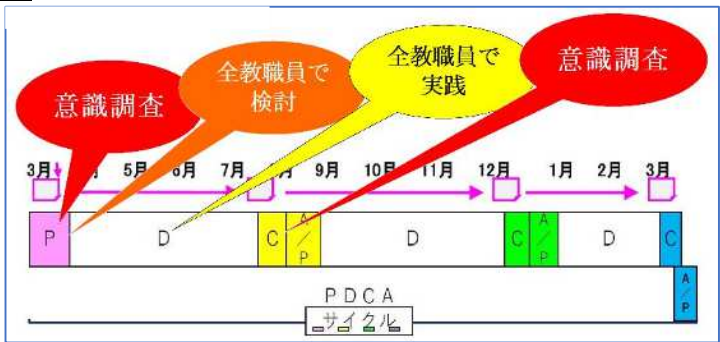
～「調査結果と見積もり値のズレが生じたのは、なぜか?」「課題はどこにあるのか?」～



- 先生方による話し合いでの共通理解(例)
- ・対象は、全ての子供
 - ・個別指導・個別支援の話にならないようにする
 - ・どの立場の意見も尊重する
 - ・一人一人の考えを受け入れ、認める
 - ・みんなが納得する

4 年3回のPDCAサイクルで実践する

新たな不登校児童生徒を出さないことを目的に、年間を通して、**集団指導**の取組を点検・見直ししながら進めていく、**全教職員**で行う不登校対策の実践

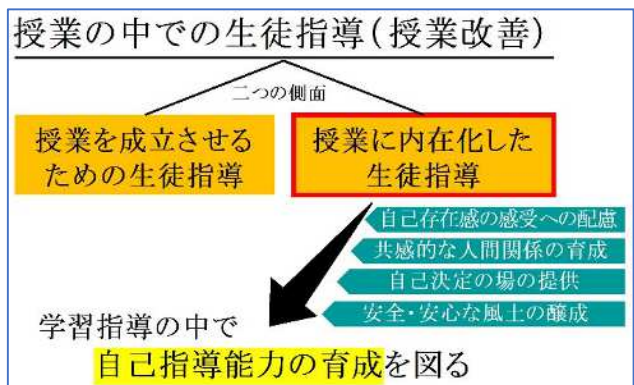


あわせて

「居場所づくり」と「絆づくり」を行う

- 教職員による居場所づくり
 - 【安心安全な場所づくり】
教職員が、児童生徒にとって安心できる場所、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくり出す。
 - ・ 魅力ある授業づくり
 - ・ 温かな学級づくり
 - ・ 児童生徒との絆づくり
 - ・ 保護者との信頼づくり
- 児童生徒による絆づくり
 - 【活動の場や機会の提供】
児童生徒が、主体的・共同的な活動を通して、「絆」を感じ取り、紡いでいくために、教職員が場や機会をつくり出す。
 - ・ 学級活動
 - ・ 生徒会 (児童会) 活動
 - ・ クラブ活動
 - ・ 学校行事
 - ・ 部活動
 - など

授業に内在化する生徒指導を意識する



5 更なる取組の充実のために ◇◆教職員集団の同僚性◆◇ (生徒指導提要P28)

組織的かつ効果的に生徒指導を実践するためには、**教職員同士が支え合い、学び合う同僚性が基盤**となる

学級・ホームルーム担任中心の**抱え込み型生徒指導**から、多職種による**連携・協働型生徒指導**へと転換

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班 (秋口・角)
 TEL 099-286-5532
 Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp